

## 小林茂則ランサーがチャンピオン確定一番乗り!



「ここで勝って(チャンピオンを)決められた」という小林選手が有言実行し、4WD-2クラスで優勝を手にした。

**西** 日本を襲った台風20号が温帯低気圧に変わった影響もあり、北海道は8月の第4週が大雨に見舞われた。その週末に当たる8月26日に開催が予定されていた北海道地区のダートトライアル選手権第9戦は、前夜まで開催が危ぶまれていたが、当日のコース変更等の対策を取って無事に開催された。シリーズ全10戦の中で、オールスター選抜やチャンピオン争いが熾烈さを極めている重要な第9戦めだけに、参加者と関係者は中止にならずにホッと胸を撫で下ろした。

全国屈指のハイスピードコースであるオートスポーツランドスナガワのダートトライアルコースだが、前日まで降り続いた雨がいたるところに水たまりを築き、例えるなら田んぼのようなぬかるんだ状態。なるべく水の少ないところを走れるよう安全性も考慮した結果、1分30～40秒ほどの短いコースレイアウトとなった。

チャンピオン確定がかかる4WD2クラスの小林茂則選手はここまで4勝を挙げ、それに追従してくる3勝の島部亨選手の走りが気になっている様子。「普段あまりクルマに乗らないので、1本目から速いタイムを出すことができないんですよ」という小林選手はヒート1で1分20秒034のタイムだったが、ラインを外さない走り

を心掛けた結果、タイムを1分15秒982まで詰める圧倒的な速さで見事、優勝した。

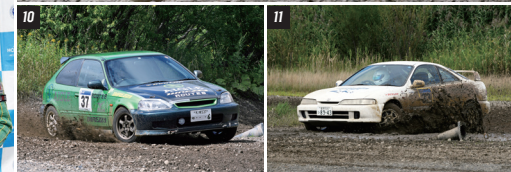
FF2/4WD1クラスはシリーズリーダーの山田将崇選手を川口昭一選手が追いかける状態。ヒート1では川口選手がクラスベストタイムをマーク、続くヒート2でさらにタイムを縮めた。山田選手もそれに離されまいとタイムを詰めたが、わずかにコマ253届かず2位。「なんとかギリギリ勝って良かったです」と嬉しそうに語る川口選手。チャンピオン争いは最終戦に持ち越しとなり、山田選手は「次回は頑張ります!」と



決勝当日はインを攻めたいところだが、水たまりが行く手を阻んだ。深いところでは膝下まで水が溜まっていた。



4WD2クラス/12位表彰台ながらも「打倒エボXが叶った」と嬉しい表情を見せた古沢聖樹選手。2.ヒート1でリタイヤだったがヒート2で巻き返した伊藤上司選手は見事3位。3.左から2位・古沢選手、優勝・小林選手、3位・伊藤選手。



**FF1クラス** / 4.「勝つつもりが…次戦に望みを繋げます」と悔しい2位の左近弘道選手。5.3位入賞は田丸豪選手。6.1位の内藤選手は「ポイント争いは同門対決ですが、次戦は精一杯頑張ります」と抱負を語った。7.左から2位・左近選手、優勝・内藤選手、3位・田丸選手。

**FF2/4WD1クラス** / 8.左から2位・山田選手、優勝・川口選手、3位・中澤昌彦選手。9.「山田選手が速くて…」コンマ253差だった川口選手が辛勝ながら1位を獲得。10.「勝つつも思って臨んだけれど残念ながら」と2位の山田選手。11.中澤選手は3位入賞。



**J1 & J2クラス** / 12.「この勢に乗って次戦も優勝目指して頑張ります」とJ1クラス1位の木村選手。13.J1クラス2位は中村つよし選手。14.左からJ1クラス2位・中村選手、優勝・木村選手。15.左からJ2クラス2位・山口選手、優勝・高山選手。16.「今日は楽しいダートラになりました」とJ2クラス2位の山口選手。17.高山選手は、避けきれずに水に突っ込んでしまいましたが、うまくタイムに繋げてJ2クラス堂々1位。



決意を新たにしていた。

FF1クラスは全日本にも参戦している内藤修一選手が魅せた。ヒート1&2ともにトップタイムを叩き出す安定した走り。「ゼッケン20番前後の走行順としては、水たまりだったところが広がって難しい路面だった」と振り返る内藤選手。ヒート2から陽射しも強くなり路面が乾いてタイムが縮まったと分析しつつも、自身の走りの内容としては若干不満足な印象を述べた。

6台が参加したJ2クラスはタイムが拮抗。ヒ

ート1はグチャグチャな路面ながらも

タイムが1分23〜26秒台に集中し、午後の路面の変化次第では誰が優勝してもおかしくない状況。ヒート2で先陣を切った山口達也選手が1分19秒892を出して逃げ切ったかと思われたが、「なるべく路面コンディションの良いラインで走りました」というシリーズリーダーの高山繁選手が最後に決めて優勝した。

J1クラスはヒート1で3番手の木村守男選手が、ヒート1首位の中村つよし選手のタイムを

上回る速さで、見事逆転優勝を飾った。「あまり考えずに走りました。2本めはコースの水がはけていたこともあって、踏んで行けたことが勝因でしょうか」と淡々と語った木村選手。

その他、AT2クラスはDレンジとパドルシフトをヒートで使い分けて走ったという中村卓司選手が優勝。またRWDクラスは「トラクションのかけりが良く、うまくラインに乗れました」という古谷欣竹選手が優勝した。



**AT2クラス** / 18.19.優勝の中村選手は、トルクを稼ぐためにパドルシフトで走ったのが功を奏した。

**RWDクラス** / 20.21.まっすぐに立ち上がれるように意識して走ったという古谷選手が優勝。